

第1期における収支改善（H22のH17対比）

<p>◎医業収益の増加 +102.6億円</p> <p>○診療・看護体制の充実による診療報酬上位基準の積極的取得 +45.7億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7対1看護導入 +24.7億円 （急 H21～ 呼 H21～ 成 H19～ 母 H18～） ・小児入院医療管理料の対象病棟拡大(母) +21.0億円 <p>○地域連携・効率的な病床運用による患者の確保 +24.6億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入院患者数の増加 等 +2.2億円 ・手術の増加 +16.5億円 ・外来化学療法件数増加 +5.9億円 ・放射線治療件数増加 <p>○ODPCの導入 +16.8億円</p> <p>（急 H21～ 成 H18～ 母 H21～）</p> <p>○その他(診療体制の強化等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 救命救急センターの機能強化(SCU・CCUの整備等)(急) 身障センター附属病院統合(急)、地域医療支援病院承認(急) 精神科救急・合併症入院料算定患者数の拡大(急) 結核患者に対する透析治療の実施(呼)、結核病棟入院基本料10:1(呼) 医療観察専用病床の開設(精)、訪問看護の拡大(精) 特定機能病院承認(成)、都道府県がん診療連携拠点病院指定(成) ICU増床運用(母)、在宅療養指導料算定患者数の拡大(母) 	<p>◎医業費用(一般管理費含む)の増加 +42.3億円</p> <p>○給与費の増加 +2.3億円</p> <p>※給与費比率は14.1ポイントの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療部門の体制強化及び事務労務部門の集約化 → H17とH22の3月1日比較で、常勤職員は169人増 〔 医師+53人 看護師+184人 医療技術+111人 事務▲48人 労務▲131人 研究±0人 〕 ・給与カーブのフラット化 （常勤職員の新陳代謝による給与費の減少 ▲8.1億円 等） ・医師等の手当拡充 等 <p>○材料費の増加 +11.4億円</p> <p>※材料費比率は4.2ポイントの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPD事業者の価格交渉等による材料費の減少 ▲7.0億円 ・患者増、高度医療の拡大などに伴う増加 +18.4億円 <p>○経費の増加 +27.4億円</p> <p>※経費比率は1.1ポイントの上昇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託料増 +13.5億円 現業部門の委託化 【給食(急 H20～ 呼 H19～)・クリーニング(呼 H22～)】 等 ・賃借料増 +9.2億円 医療機器リース整備及び電子カルテ導入 等 【電子カルテ(急 H19～ 成 H22～ 母 H21～)】 	<p>◎医業収支増減額 +60.3億円</p>
<p>◎資本収入の増加 +16.8億円</p> <p>○長期借入金増加 +5.6億円</p> <p>（ ○借入金元金償還に係る運営費負担金の増 +8.4億円 ）</p>	<p>◎資本支出の増加 +32.2億円</p> <p>○建設改良費の増加 +23.8億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の更新等(H17 5.5億円 → H22 25.8億円) （急）リニアック （成）小線源治療装置・CT・ガンマカメラ 等 <p>（ ○償還金の増加 +8.4億円 ）</p>	<p>◎資本収支増減額 ▲15.4億円</p>
<p>収入の増加 +110.0億円</p>	<p>支出の増加 +72.6億円</p>	<p>収支増減額 +37.5億円</p>

*医療機器整備費 H13～17 56.5億円→H18～22 84.7億円 +28.2億円